

令和 6 年度

自己評価 集計結果

令和 6 年 10 月～12 月 実施

社会福祉法人 愛光会

袋 井 ハ ロ ーこども園

令和6年度 自己評価集計結果 「はい」と回答した項目

		項目数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	AC	AD	AE	AF	AG	平均値	順位			
総則 教育・第1章 保育の基本	1、教育・保育の基本		14	12	13	10	12	13	12	14	12	12	14	13	11	14	14	13	11	13	12	12	12	13	11	11	12	12								12.3	11			
	2、教育及び保育の配慮		14	13	14	12	13	10	12	14	13	11	14	14	12	14	14	14	13	13	14	13	14	14	14	11	10	11	12								12.8	9		
	3、教育課程・全体的な計画、指導計画作成と評価		35	26	30	31				33	32		32	32	35	32		33	34		30	35	31	30	31	31	25	25	26	34							30.9	1		
	4、特別支援教育・障害児保育		9	8	5						8		7		8			9			9		6		7	6	5	4	8								6.9	25		
	5、「育みたい3つの真実・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」		7	5	5	3	3	4	5	7	5	5	5	7	4	4	7	5		3	6	6	3	3	7	4	3	5	5								4.8	27		
	6、子どもの発達		14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	13	14	14	14	14	14	11	14	14	14	14	14	14	14	13	14								13.8	7	
第2章「ねらい」及び「内容」	容 容 容	わ1、乳児保育に関するねらい及び内容	(1)身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」	10	10	10		10				10							10	10					10			8									9.8	14		
		(2)社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちに通じ合う」	10	10	10		10				10			9						10	8					10			7								9.3	19		
		(3)精神的発達に関する視点「身近なものと関わり感性が育つ」	10	10	10		9				10			10						10	8					10			8								9.4	17		
	保2育に 関する ねらい 及び 内容	(1)健康	10				10	10		10	10			10	10	10		10		10	8	10	10	9	10	10	10	1	8	10								9.3	20	
		(2)人間関係	10				9	10		10	9			10	10	8		10		10	8	10	7	7	9	10	9	6	8	9								8.9	23	
		(3)環境	10				10	9		10	10			10	10	9		10		10	9	10	10	8	10	10	9	7	9	10								9.5	16	
		(4)言葉	10				10	10		10	10			10	10	10		10		10	8	10	10	9	10	10	10	6	8	10								9.5	15	
		(5)表現	10				10	9		10	9			10	10	9		10		10	9	10	8	8	9	10	9	8	7	9								9.2	21	
	4、3歳以上児の保育に関する ねらい及び内容	3、保育の実施に関わる配慮事項(乳児・1歳以上3歳未満児)	10	9	9	9	9		10	9	8		8	10	10		8		9	7	9	8	9	8	9	9	9	6	8	8								8.6	24	
		(1)保育内容「健康」	20	19		20		20	20	20	18	20	19		10				20	20	18	20						19	18	16	20								18.6	2
		(2)保育内容「人間関係」	20	17		19		19	20	20	19	20	20		8				19	20	15	20						17	17	16	19								17.9	4
		(3)保育内容「環境」	20	16		17		20	17	20	17	20	19		9				17	19	13	20						15	15	12	19								16.8	5
		(4)保育内容「言葉」	20	16		20		20	20	19	18	20	18		10				20	20	18	20						17	15	16	20								18.1	3
		(5)保育内容「表現」	20	19		17		20	18	20	12	16	16		9				18	20	17	19						13	15	10	12								15.9	6
健康及び安全 第3章	1、健康支援	14	12	13	12	14	14	12	13	13	14	14	14	13	7	14	13	14	14	14	10	11	9	12	11	10	10	14									12.3	10		
	2、食育	11	11	9	11	8	11	11	11	11	10	11	11	11		11	11	10	9	10	10	10	11	9	10	10	10	11									10.3	13		
	3、環境・衛生管理、安全管理	11	10	10	9	10	10	10	11	11	10	8	8	9	8	11	11	11	10	10	8	8	10	9	9	9	5	10									9.4	18		
	4、災害への備え	13	12	12	11	12	13	12	13	12	10	9	11	12	9	13	10	13	8	13	9	10	11	10	11	10	11	13									11.2	12		
子育て支援 第4章	1、園児の保護者に対する子育て支援	10	10	10	8	10	10	10	10	9	10	8	9	9	9	10	9	10	6	9	9	8	8	10	8	9	6	10								9.0	22			
	2、地域における子育て支援	8	6	8	5	4	8	8	8	8	8	4	6	7	8	8	8		0	8	8	5	3	8	3	5	5	8								6.3	26			
第5章	職員員の資質向上	15	15	15	11	12	13	15	14	14	14	14	12	14	11	15	14	14	7	15	15	13	13	13	12	13	10	15								13.2	8			
	「はい」個人合計		365	280	197	288	198	219	309	325	244	253	295	252	251	95	231	251	300	278	328	198	194	195	246	272	271	246	312	0	0	0	0	0	0	0	198			
	「はい」と答えた割合(%)			77%	54%	79%	54%	60%	85%	89%	67%	69%	81%	69%	69%	26%	63%	69%	82%	76%	90%	54%	53%	53%	67%	75%	74%	67%	85%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	54%			

令和6年度 自己評価集計結果

「いいえ」と回答した項目

			項目数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	AA	AB	AC	AD	AE	AF	AG	平均値	順位	
総則 教育第1章 保育の基本	1、教育・保育の基本		14	2	1	4	2	1	2	0	2	2	2	2	1	3	0	0	1	3	1	2	2	2	1	3	3	2	2								1.8	7	
	2、教育及び保育の配慮		14	1	0	2	1	4	2	0	1	3	0	0	2	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0		4	3	2								1.1	15	
	3、教育課程・全体的な計画、指導計画作成と評価		35	9	5	4			2	3		3	3	0	3		2	1		5	0	4	5	4	4	10	10	9	1								4.1	1	
	4、特別支援教育・障害児保育		9	1	4					1		2		1			0				0		3		2	3	4	5	1								2.1	5	
	5、「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」		7	2	2	4	3	3	2	0	2	2	2	0	3	3	0	2		4	1	1	4	4	0	3	4	2	2								2.2	4	
	6、子どもの発達		14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0									0.2	27
第2章「ねらい」及び「内容」	容 容 容 わ、ねらい保育 に内容	(1)身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」	10	0	0		0				0			0					0	0					0		2										0.2	26	
		(2)社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」	10	0	0		1				0				1				0	2						0		3									0.8	20	
		(3)精神的発達に関する視点「身近なものと関わり感性が育つ」	10	0	0		0				0				0				0	2						0		2									0.4	25	
	保2育に1 関 ねら い未 及 満 児 の 保 育 に 関	(1)健康	10			0	0		0	0				0	0	0		0	2	0	0	1	0	0	0	0	9	2	0									0.7	21
		(2)人間関係	10			1	0		0	1				0	0	2		0	2	0	3	3	1	0	1	4	2	1									1.1	16	
		(3)環境	10			0	1		0	0				0	0	1		0	1	0	0	2	0	0	1	3	1	0									0.5	23	
		(4)言葉	10			0	0		0	0				0	0	0		0	2	0	0	1	0	0	0	4	2	0									0.5	24	
		(5)表現	10			0	1		0	1				0	0	1		0	1	0	2	2	1	0	1	2	3	1									0.8	18	
	3、保育の実施に関わる配慮事項(乳児・1歳以上3歳未満児)		10	1	1	1	1		0	1	2		2	0	0		2		1	1	1	2	1	2	1	1	4	2	2								1.3	14	
	わ、3歳以上児の 保 育 に 関	(1)保育内容「健康」	20	1		0		0	0	0	2	0	1		1			0	0	2	0					1	2	4	0								0.8	19	
		(2)保育内容「人間関係」	20	3		1		1	0	1	1	0	0		2			1	0	5	0					3	3	4	1								1.5	10	
		(3)保育内容「環境」	20	4		3		0	3	0	3	0	1		6			3	1	7	0					5	5	8	1								2.9	3	
		(4)保育内容「言葉」	20	4		0		0	0	1	2	0	2		1			0	0	2	0					3	5	4	0								1.4	13	
		(5)保育内容「表現」	20	1		3		0	2	0	6	3	4		4			2	0	3	1					7	5	10	8								3.5	2	
健康及び安全 第3章	1、健康支援		14	2	1	2	0	0	2	1	1	0	0	0	1	7	0	1	0	2	0	4	3	5	2	3	4	4	0								1.7	8	
	2、食育		11	0	2	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0		0	0	1	2	1	1	1	0	2	1	1	1	0								0.7	22	
	3、環境・衛生管理、安全管理		11	1	1	2	1	1	1	0	0	1	3	3	2	3	0	0	0	1	1	3	3	1	2	2	2	6	1								1.6	9	
	4、災害への備え		13	1	1	2	1	0	1	0	1	3	4	2	1	4	0	3	0	5	0	4	3	2	3	2	3	2	0								1.8	6	
子育て支援 第4章	1、園児の保護者に対する子育て支援		10	0	0	2	0	0	0	0	1	0	2	1	1	1	0	2	0	4	1	1	2	2	0	2	1	4	0								1.0	17	
	2、地域における子育て支援		8	2	0	3	4	0	0	0	0	0	4	2	1	0	0	1		2	0	0	3	5	0	5	3	3	0								1.5	11	
第5章	職員の資質向上		15	0	0	4	3	2	0	1	1	1	1	3	1	4	0	1	1	0	0	0	2	2	2	3	2	5	0								1.5	12	
「いいえ」個人合計			365	35	18	38	22	12	17	11	25	21	31	15	35	25	4	17	6	64	7	28	41	31	19	60	94	89	23	0	0	0	0	0	0	89	877		
「いいえ」と答えた割合(%)				10%	5%	10%	6%	3%	5%	3%	7%	6%	8%	4%	10%	7%	1%	5%	2%	18%	2%	8%	11%	8%	5%	16%	26%	24%	6%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	24%	7%		

チェックリスト全体を振り返って、あなたにとって「気づき」の大きかったもの、特に印象深かったもの

・今まで自己評価をするなかで、表現の内容は「いいえ」と回答する項目が多く、保育に取り入れていけるといいと感じていた。昨年度4歳児クラスを担当した際に、子どもたちがごっこ遊びが上手で楽しく遊ぶ姿が多かったため、さらに楽しめるように、今までの自己評価の反省を生かしながら、表現することの楽しさを意識して環境構成をしたり、活動を考えたりした。

子どもたちが生活の中で様々な表現を楽しむことができ、今回の自己評価では、前回よりも「はい」と回答できる項目が増えよかったと感じる。

・自己評価をすることで、自分がうまく理解できていない分野や、保育に足りないことを把握することができ、保育の向上に繋がると感じた。資質向上というと、研修を受けたり、新しい知識を学ぶことを考えがちであるが、自分の保育を振り返ることも大切であると改めて感じることができた。

・乳児保育に関わる分野では、「一人ひとりの」という言葉が多く使われており、個人差に配慮しながら、その子にあった関わりが大切であり、担当制を取り入れるなかで、食事面についてはいつも同じ保育教諭が介助することで、子どもも楽しく、落ち着いた食事ができていると感じる。食事に関わらず、子どもたち安心して生活ができるよう、これはこうといった決めつけをせず、その子に合わせて対応をしていきたいと改めて感じた。

・「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について改めて具体的な内容を調べた。0歳児クラスにおいて特に必要であると感じた項目は、健康な心と体、豊かな感性と表現である。清潔にすること、衣服の着脱、排泄などの生活習慣を身に付けようとする1番初めの段階が0歳児クラスであると思うので、一人ひとりのペースで、大人が焦ることなく、子どもが楽しく、生活習慣を身に付けられる方法を考えることが重要であると感じた。

・「教育及び保育の配慮」について、「だめ」「いけません」など制止する言葉を用いないようにしていますかという部分で、どこまでが必要で、どこまでが不必要なのかが難しいと感じた。0歳児クラスなので、イタズラをしようと思ってやっているのではなく、気になるだけ、大人の真似をしているだけ、であると思うし、反対に一度だめだと伝えたと構って貰えた喜び、何度も繰り返す場合もあり、0歳児クラスでのやっていいこと、やってはだめなことの伝え方が難しいと感じた。0歳児クラスでは、子どもの意識をだめなことから他のことに反らすことが最適なのではないかと思うので、実践していきたい。

・「子どもの発達」の豊かな感性と共に好奇心、探求心や思考力が養われるよう保育を工夫しているかという部分で、自分の保育内容は充実しているのかを改めて考え直した室内でも戸外でも同じような遊びになってしまいがちだが、そんな中でも少し活動内容を変えてみたり、楽しみ方を変えてみたりできるようなレパートリーを、先輩の動きを参考にしながら、自分の中で増やしていきたいと感じた。

・今年は8月に南海トラフ地震臨時情報が発令され改めて防災に対する備えの必要性を感じた。起震車体験をし、実際に巨大地震が発生したらマニュアルの確認などする余裕は全くないことを痛感し、自分自身も立てない状態でどうやって子ども達の命を守るか状況に応じて瞬時に判断して行動しなければならないと思った。そのために普段から防災マニュアルを確認し頭に入れておくことが大切で、その上で地震発生時に臨機応変に的確な判断をすることが求められると思った。これは地震のみでなく近年の異常気象に伴って頻発している水害や竜巻、また不審者対応などに対しても同様でいつ突然起こるかかわからない災害に対して行動できるための訓練や心構えが大切だと感じた。

・子どもの成長は園を卒園したら終わりではなくその後も小学校、中学校…と続いていくことを考えると「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の重要性を感じる。この10の姿を頭に入れながらそれぞれの年齢の子ども達に適した働きかけや関わりを意識して行い、卒園まで継続して様々な体験を積み重ねていくことが大切だと思った。そのためには子どもの発達の流れをしっかりと理解し、一人一人の子どもの発達状況に応じて次の成長段階を見据えた関わりが出来るようにしていきたいと思った。

・子育て支援センターで日々保護者と関わっていると保護者の育児力が年々低下していると感じる。育児に関する情報や方法をスマートフォンで検索しながら我が子に対応している保護者が増えているが、これは保護者が悪いのではなく核家族化や育児の孤立化が進んだ社会の中で必死に子育てをしている姿の表れだと思う。育児に行き詰まったり困って電話相談をしてくる保護者もいる。地域の子育てを支援していく者としてこのような保護者に寄り添いながら子育ての知識や技術、子どもへの関わり方などを伝えていくことが求められていると思っている。

・保育指針や要録といったものを具体的に説明することが難しく、知識として身につけていないことに気づいた。今後身につけるために指針、要録を復習するだけでなく、実際の現場でアウトプットし、知識として身につけていきたいと感じた。また、今年担当する年齢だけでなく、未満児から小学校までのつながりを考え、全体的に内容を把握していきたいと感じた。よく見ていきたい内容としては、いいえが多かった表現の分野や、変化の多い人間関係、健康の内容をよく復習していきたいと感じた。表現に関しては、音楽活動を重点的に見ていき、より充実した活動内容を考えていきたいと感じた。

・あらためて保育者に求められているニーズに男性である自分がどのようにかなえていくか、考える機会になりました。子どもたちとの関わりにおいて、力強さや体力面で運動のニーズに答えられるが、保護者の子育てや女性特有の相談においては困難なため、他の職員と連携を取りながら進めていく必要があると感じた。十分コミュニケーションをする上で配慮をしていきながらも、その他の相談事を伝えられるように、積極的に関わっていききたい。また、男性が苦手な未満児も体感として多いように感じるので、調べたり、別の男性職員に質問したりして、改善していきたいと感じた。

・子どもの命を守ることに繋がる内容は、正しく自信をもって答えられるようにしていきたいと感じた。今回の内容の中では、健康支援、衛生管理、安全管理、災害の備えなどは特に見直したり、先輩の職員と確認したりしながら身に付けていきたいと感じた。また、一年目ということに甘んじず防災訓練など積極的に参加し、命に助ける取り組みなどが伝える力を身に付けていきたい。また、以上児と未満児の違いを明確にし、どの年齢の子どもが対象でも、安全に過ごせるように対応方法を身に付けていきたい。以上児の対応に慣れている分、来年以降、未満児の命を守る取り組みについて調べたり、先輩に質問したりして過ごしていきたい。

・災害への備えについての項目で印象深かったのが、保護者への連絡だった。災害時の園への連絡方法や、避難場所など、保護者に伝えていることが少ないのではないかと感じた。最近災害が増えてきて、特に地震はいつ起こってもおかしくない状態になっている。日本中全国各地で地震が発生している今、もっと緊張感をもって防災訓練に取り組まないといけない。いざという時に冷静に対応できるように、日ごろから防災意識を高めておきたい。

・子どもたちは保育者の些細な発言や行動をよく覚えているので、聞かれたり見られたりしても恥ずかしくないような振る舞いをしたいと思う。驚いた時などはつい普段の自分が出てしまうと思うので、普段から言葉遣いや仕草に注意していきたい。子どもたちに真似されても困らない保育者でありたいと思う。園だけでなく、家にいる時にも気を付けることで身につくのではないと思う。

・指導計画作成に当たって配慮すべき事項について、もっと勉強しなくてはいけないと感じた。指導計画を作成するに当たって、その時の子どもたちの様子、興味関心のあることを取り入れているが、地域の行事や自然などは取り入れることが出来ていなかったと感じる。この地域の特徴として祭りが挙げられるが、自分自身祭りに参加しないので、あまり祭りについて知らない。なので祭りについて知り、子どもたちに知らせていく必要があると感じた、

・子どもの気持ちの受け止めはできていると感じたが時間が無い時や、自分の気持ちが追い詰められてしまっている時に、子どもに対して言い方がきつくなってしまうたり、使うべきではない言葉を使っていると感じたりするので時間や気持ちに余裕が持てるように計画的に物事を進め、先輩方の声かけや動きをよく観察しなくてはならないと改めて感じました。

・本年度になって、支援が必要な子が増え、支援方法や関りについて改めて考えるいい機会になりました。大人でも一人ひとり特色があるように、子ども達にも支援の仕方が違うこともあるので、臨機応変になって対応することができれば、支援に対する計画をより立てやすくなるのではないかと気づくことができました。

・就職して一年たったこともあり、他の職員とのかかわりが増えてきたと感じる。他愛もない話から真剣な仕事の話までを交わしていくことで、お互いの様子をしれたり、お互いの保育観が知れたりするいい機会だったと感じている。これからもコミュニケーションを怠ることなく、より働きやすい環境づくりに取り組んでいきたいと思う。

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」や「育みたい3つの資質・能力」のところで今まで勉強して理解していたが改めて見直すことが出来たと思う。詳しく説明が出来るようにもっと理解を深め日々の保育に生かしていけるようにしていきたい。子ども一人ひとり発達の個人差があるため、その子の八たる状況や特性に合わせながら10の姿を頭に入れて活動内容を考えたり、食事や衣服の着脱、排泄などの生活習慣を身に着ける際に意識して援助をしていきたいと感じた。

・一日の保育を振り返った時に「～してはいけないよ」、「～するのはだめだよ」など制止するような言葉を不必要には用いているわけではないが、使ってしまったことがあるなど気づくことができた。せかすような言葉かけや制止する言葉を使うなど子どもへの言葉の使い方にも注意しながら過ごすことが大切だと感じた。いけないことをしっかり伝えるときにどのような伝えればよいのか難しいなと感じた。やってはいけないことの理由を伝えることが大事だと思ったので実践していきたい。

・子どもだけでなく保護者との関係も大切だと気づいた。子どもの日々の生活の様子や成長したこと、体調面など園での様子を分かりやすく伝えていくことが重要だと思った。連絡帳や送迎時のコミュニケーションが保護者との信頼関係を築いていくことができると思うのでたくさん話が出来るようにしていきたい。

・「3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容 保育内容「表現」」で自己評価を通して、自分が行っていた日々の保育で子どもたちが自分のイメージしたことを自由に表現できる活動をほとんど行っていないことに気づき、活動内容を改善していきたいと感じた。特にリトミックのような音楽を使って体を動かしたり表現をしたりする活動は自分自身勉強不足で知らないことも多い為、ピアノが苦手ではあるがピアノ以外の音楽でも楽しんで行える活動を学び、実践していきたい。

・「園児の保護者に対する子育て支援」で今までは主にクラスの園児の保護者との関りが多く、子どもの様子を伝えたり相談事にも対応をしたりしていたが、今年度から事務所の勤務になり全園児の保護者に関わる機会が多くなった。現時点では子育ての相談を受けることはなかったが、今後相談を受けることも想定されるので、保護者の方が安心して話が出来る存在になれるよう日々子育て支援についても勉強していきたい。

・「健康及び安全 災害への備え」で毎月防災訓練を行っているが、私自身研修で震災時の保育現場についての話を着た際、状況に応じて臨機応変に対応し訓練時とは異なるルートで早く避難する事を最優先にしたということを学んだ。臨機応変に対応できたことは、日々の訓練だけでなく、園周辺の状況や過去の被害状況を把握したりマニュアルを見直したりしていたことが対応に繋がったとのことであった為、自分自身も意識をしていきたいと感じた。

自分の保育について振り返りアドバイスをもらったときは、まずは受け止めるようにして自己理解をするように意識している。

またアドバイスしたときに素直に聞き入れてもらえなかったり、感情的になったりして受け止めてもらえないこともある。そのような時に自分はどのようにして相手と関わったらよいのか悩むことも多い。人の良い所をたくさん見つけて声をかけていけたらと感じる。

未満児クラスは特に言葉数が増える時期である。子どもに話しかけているときだけでなく保育教諭同士の会話の中での言葉も子どもたちは常に聞いているため気をつけていくべきだと思う。

どのようにして言葉を伝えていくか、子どもの言っている言葉を拾ってあげられるか今後の課題になってくと思う。

子どもの発語に耳をかたむけて共感して、子どもにとっての理解者になれるように意識していきたいと思う。

子どもが落ち着いて食事の時間を楽しめるように未満児クラスは個々の生活リズムに合わせていったり、食事の量も考えていったりしていくことを今以上にもっと意識していくことが必要であると感じた。子どもたちが栽培・収穫したものを食べる機会を作っているが保育者がすべてやるのではなくて子ども主体で進めていけたらより良いものになるのではないかと思う。食事のマナーが年々悪くなっている現状を踏まえ、私たち保育者が何を援助していくべきなのか再確認するべきだと思った。

・はじめて未満担任だったこともあり分からないことがとても多かったが子どもたちの姿や自主性を大切にすること、育てほしい姿からどう保育を工夫し環境設定をしていくか、担任同士しっかり話し合い、実践できたことで子どもたちも職員も笑いの絶えない生活の中で成長していくことが出来て良かった。思った以上に保育教諭や周りのことを模倣しているので自分自身気を抜かずに丁寧に接していきたいと感じた。

・KPT や毎日5分の話し合いを続けることで1日の振り返り、改善点をすぐに出していくことが出来た。また毎月じっくり話し合えたことで来月からどんなことを意識して保育すべきか共通理解することもできて複数担任でありながら一貫した保育方針で生活を送ることが出来たことはとてもよかったと思う。また、全員が自分の意見を言い、最善の案を考えていくことが出来たこともよかった。コミュニケーションをとっていくことの大切さを再認識した。

・自分のクラスのことだけでなく、他クラスのことや畑のことも自分のことのように意識していきたい。園行事なども担当任せではなく声を掛けたりできることがないか気につけ、気付ける心の余裕を持ちたいと感じた。また、気軽に相談したり仕事を頼みやすくていたりする穏やかでありたいと感じた。未満だとフリーの先生が多く入ってくれて見習いたいなあ〜と感じることもある為、多くの先生たちのいいところをどんどん真似して成長していきたい。

・子どもの成長には環境がすごく大切なものと改めて気づくことができた。部屋の環境や日中の活動で基本的な生活習慣が身に付くため、私たち保育教諭がより良い環境を作っていこうと感じた。子どもたちが自分から気づき、やってもたいと思える環境を作る工夫をしようと思った。子どもたちがやりたい、やってみたいと思ったことをやらせてあげられるような環境を用意して伸び伸びと楽しく過ごせるようにしていこうと思った。

・保護者への支援も大切だと感じた。保護者への伝達だけでなく、普段の挨拶や日常会話でのやりとりを意識し、信頼関係を築いていくことで保護者の方も安心して園に預けられるようになるため、いま以上に意識していきたいと思った。園児だけでなく、保護者の方にも安心してもらえるような環境や話し方をしていきたい。保護者への伝達の仕方も工夫しどう伝えたらいいのかを他の保育教諭とも共有していきたい。

・子どもの発達には個人差があり、その子にあった保育のやり方をしていこうと改めて感じた。子どもにもそれぞれペースがあり、その子にあった方法を見つけ出すのが保育教諭の役割だなと感じた。できないから怒ってしまうのではなく、どうしたらできるようになるのかを私たちが見つけ出すことにより子どもの成長に繋がっていくのだと感じた。もっと工夫した保育の仕方を勉強したいと思った。

・地域における子育て支援では、子育てなどの連絡・相談をする外部機関の事を知らないことが多かったので知らなかったことは先輩や上司に聞いて知らないことを減らさなければならないと思った。また、子育てについて、地域の関係機関や団体などとの連携及び協力を図り、地域の人材の積極的な活用を図るように努めていないので努めるようにしていきたい。虐待についても、虐待を見抜くことが出来るように配慮はしているが、実際に虐待を見つけたときに保護者や子どもにどう対応したらよいのかを理解していなければ意味はないのでしっかりと理解して、そのような事があった時に対応できるようにしなければいけないと思った。

・環境・衛生管理・安全管理も子どもの生活にとってとても大切なことだと思った。保育者として服装や身支度などにも配慮し、自分の健康と清潔も心がけていくことはとても大切だと思った。慣れていくにつれておろそかになっていきそうなので、気を付けたい。また、子どもの体の状態やつめの長さなどの細かい所にも注意して見ていきたい。事故に関しても気を付けるべき場所や起こりやすいことなどを覚えておくことで事故を減らすことが出来るので気を付けるべきことをしっかりと頭に入れていくことがとても大切になると思った。保護者の気持ちにも配慮し、送迎時に安心できるような関りをする事で保護者も安心して子どもを預けられるようになると思った。保護者とのコミュニケーションも大切にしていきたい。

・子どもの発達には豊かな心情、意欲、態度を身につけ、新たな能力を獲得していく過程であると理解して保育することが大切だと再確認できた。発達過程は、同年齢の均一的な発達の基準ではなく、一人一人の発達として捉えることが大切なのも再確認することが出来た。そのことを踏まえて個人差を理解し、尊重して保育をしていきたい。また、子どもが興味や関心を示し、主体的に関わる環境を今も用意することが出来ているのでこれからも用意出来るようにしていきたいと思った。今出来ていることもよりよく出来るようにする工夫や努力をこれからも続けていきたいと思った。保育に慣れてきても子どもの成長は一人一人スピードが異なり、個人の事なのだと忘れないようにしていきたい。

・今年度、保護者とのコミュニケーションについて考える機会が多くあった。普段から小さな出来事でも送迎時に話すようにしていたが、保護者の立場に立ってみて客観的に自分のことを振り返っていく必要があると感じた。保護者の不安な気持ちも受けとめて、安心して子どもたちを預けることができるようにコミュニケーションを取っていけるようにしていきたい。そのため、職員間でも子どもたちの良いところも含めて出来事を共有していきたい。また、普段の挨拶も保護者や地域の人との関わっていく中で大切になってくると改めて感じた。挨拶は基本的なことだけれども、大切なことのため改めて意識して行っていきたいと感じた。

・子どもたちの関わりの中で、園生活の中での決まりやみんなで遊ぶ上のルールについて知らせるだけではなく、子どもたち自身が気づくことができるように声掛けをしていきたいと感じた。子どもたちが考えて決まりを作ることで、子どもたちも理由を理解して納得して遊ぶ事ができる。そのためにも、子どもたちが考えて発言できるような機会を大切にしていきたいと感じた。また、子どもたち同士トラブルがあった時にどうしたら良かったのか一緒に考えていくことで、子どもたち自身も他児との関わり方について学ぶことができる。自分自身で考える機会を増やし、考える力を伸ばしていけるように関わっていきたい。

・様々な研修を受けていく中で自分の持っている知識をしっかりと保育に活かすことができていると感じた。知識として理解している内容でも、実践することに至っていない内容が多いのではないかなと思った。毎日自分の中でその日の保育について反省したり、振り返ったりしている。その中で研修の内容やクラス内で話し合ったことも思い出しながら振り返りを行っていくようにしたい。自己評価を行っていく中でもたくさんの反省点がみられた。声かけや関わり方も意識して行うことで、子どもたちによりよい保育が行えるようなことも多くあった。定期的に自分自身の振り返る機会を作り、保育の質を上げられるようにしていきたいと感じた。

・ねらいを考えるがあくまでも子ども達に強制するものではなく、生活や遊びの中で成長の援助をしていく。
・園・保護者・地域の連携が必要だということ。園内だけではなく、子ども達が関わる人すべてに子ども達へ影響を与えている。

・昨年度の保育を振り返り、自分自身の課題が明確化されより良い保育をするための意識・関わり方を見直すことができた。自分に余裕を持つことで子どもたちと笑顔で接することができるようになったと感じる。また、子どもたちの思いや行動の意味を考えて関わるができるようになってきたと感じる。

・保護者との信頼関係の大切さに気付いた。毎日の連絡帳や送迎の際のコミュニケーションが保護者との信頼関係づくりの基盤である。それらを活用しながら、保護者自身の不安や困っていること・子どもについてなどを聞いたり、話しをしたりすることで子どもにとって過ごしやすい環境を整えることにつながるため、保護者との信頼関係は大切だと再確認した。

・保育は、一人で行うものではなく協力してもいいのだと気づいた。職員同士で声を掛け合ったり、保護者と情報を教諭したりすることの大切さを再確認した。

また、いろいろな考え方・捉え方があるため言葉や行動はプロという自覚をもって保育したいと思う。

・研修などを受ける重要性。自分自身が受けなくても、研修内容を把握し、自分の日々の保育に生かしていきたい。

・一人一人を大切に、一人一人に合った対応、援助をし、信頼関係を築いて安心して園生活が送れるようにしていくことが大切だと思った。その為には、一人一人の気持ちに寄り添ってあげることが必要だと思う。

・職員同士のコミュニケーションを大切に、園児の個人情報管理に気をつけ、共通理解していくことが大切だと思った。共通理解することで、自分のクラスの子ではない子でも迷わず対応できると思うから。

・様々な季節や動植物などに触れることによって、子どもの感性が磨かれていき、生き生きと生活できると思う。安全に配慮をして子どもが「やりたい」「やってみたい」と思ったことをやらせてあげられる環境を作っていこうと思った。

・乳幼児期は、人間形成をしていく上でとても大事な時期であるため、第2章のところが点が高く良かったと感じた。自分でも、子どもの気持ちに寄り添うことや、優しい言葉をかけることなど、保育の基盤として大事にしているため、今後も大事に保育をしていく。

・災害への備えについて今回やってみて、知識がまだないと感じたため、ハザードマップの見方や、こういう災害のときには、こう逃げる、避難経路などを再確認していかなければと思った。

・健康支援についての部分で、包帯などの応急処置用品の使用方法についていろいろなやり方があると思うが、一般的なやり方しか知らないため、自分でできるように知識をつけていかなければと思った。